

講義名	対)卒業研究		
講義コード	14406	授業形態	開講期・曜日・時限 通年 月曜日 4時限
担当教員	水野 英莉	備考	

学部・学科	演習分野
全学科	水野英莉ゼミナール(ジェンダースタディーズ、セクシュアリティスタディーズ)

概要説明
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会学とジェンダー・スタディーズ、フィールドワークをテーマとしたゼミです。各自での研究調査とその報告を中心に行い、卒業論文の作成をします。</li> <li>11月に開催される「学内懸賞論文コンテスト」へのエントリーを必須とします。12月に締め切られる卒業論文作成の一環として参加しています。</li> <li>適宜オンラインも併用します。各自、大学メールアドレスとパスワードの確認をしておいてください。アプリはMicrosoft Teams を使います。</li> </ul> <p>【意義・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現実社会の課題に取り組み、他者を尊重し、より良い人間社会を創造することができるようになること。</li> </ul>

主な卒業論文のタイトル
<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが電車を快適に過ごすためにはどうしたらいいか～痴漢を予防し痴漢をなくす、車内設備・環境の改善～(2021年度 学生懸賞論文コンテスト 二席受賞)</li> <li>カミングアウトによって構築される親子関係(2020年度 学生懸賞論文コンテスト 一席受賞)</li> <li>朝鮮学校における多様性教育の必要性</li> <li>流通科学大学におけるLGBTの現状と課題</li> <li>障害者スポーツにおける感動ホルノの問題について(2019年度 学生懸賞論文コンテスト 佳作受賞)</li> <li>男性・女性のファッション流行とその成り立ち(2017年度 学生懸賞論文コンテスト 佳作受賞)</li> </ul>

教員よりの要望
<p>熱意をもって研究を進めてください。</p> <p>自主的に動きつつも、ゼミ生同士が互いに協力して学びあう姿勢が大切です。</p>

選考方法
研究演習 までの成績評価、面談で判断します。

評価方法	
<p>積極的な研究姿勢(10%)</p> <p>卒業論文の提出(90%)</p> <p>ただし、必須事項として学内の懸賞論文コンテストへの投稿を含む。</p>	
教員英字氏名	研究室
Eri Mizuno	研究棟 5404研究室
最終学歴	
京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻社会学専修	
学位	
博士(文学)	
主な研究活動・社会活動・研究業績	
<ul style="list-style-type: none"> <li>『Just Surf - ただ波に乗る』(晃洋書房、2020)</li> <li>Multiple marginalization?: representation and experience of bodyboarding in Japan. Iisahunter (ed.), Surfing, Sex, Genders and Sexualities(Routledge, 2018, 71-90).</li> <li>「不妊治療における民間医療の検討」漢方・鍼灸・ヨガの施術者と利用者の語りから」杉浦ミドリ、建石真公子、吉田あけみ、来田享子編『身体・性・生命 個人の尊重とジェンダー』(尚学社、2012、142-172)</li> <li>「ライフスタイル・スポーツとジェンダー」日本・アメリカ・オーストラリアのサーフィン選手の経験と女性間の差異。」『スポーツとジェンダー研究8』(2010、4-17)</li> <li>「スポーツと差別・キャスター・セメンヤ選手の『性別疑惑』問題をめぐって」好井裕明、町村敬志、藤村正之、荻野昌弘、稲垣恭子編『文化・メディアが生み出す排除と解放 差別と排除の(いま)3』(明石書店、2011、85-110)</li> </ul>	
趣味・特技	
サーフィン、スノーボード	
所属	
人間社会学部 人間社会学科	
所属学会	
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本社会学会</li> <li>関西社会学会</li> <li>日本女性学会</li> <li>日本スポーツ社会学会</li> <li>日本スポーツとジェンダー学会</li> </ul>	
専門分野	
社会学、ジェンダー・スタディーズ、セクシュアリティ・スタディーズ	
担当科目	
社会学基礎、社会問題論、ジェンダー論、家族社会学、健康社会学、スポーツ社会学、専門基礎演習、研究演習、研究演習、卒業研究	
備考	
<p>卒業に必要な単位を得るため「だけ」の理由で取っても、卒業論文の完成は極めて困難です。就活(ヤルバイト)と、多く残した単位修得と、卒業論文の作成を同時におこなうのはほぼ不可能だからです。卒業論文の作成は、卒業研究の時間以外にも多くの時間とエネルギーを必要とします。4年間の集大成としてぜひ研究に取り組みたいという意味をもって臨む学生をサポートします。</p> <p>ただし、単位を必要としない学生も、ゼミに在籍し、ゼミやゼミのイベントに参加することは可能です。</p>	
実務経験の有無及び活用	